



第11回 多摩ブルー・グリーン賞受賞企業が決定!

多摩ブルー賞 (技術・製品部門)	最優秀賞	白山工業株式会社 (府中市)	VissQ (Visual Sensor System for Quakes) 計測地震防災システム
	優秀賞	株式会社 アспект (稲城市)	積層造形装置「RaFaEi(ラファエロ)」
	優秀賞 第11回特別賞 たましん80周年 記念特別賞	株式会社 内野製作所 (八王子市)	持続的競争優位性の源 「試作自動車製造」のトップ企業を目指して
	優秀賞	勝田産業株式会社 (昭島市)	次世代型間仕切りパネルの生産・施工 システム(NWPS工法)
	優秀賞	株式会社 CSS 技術開発 (多摩市)	ココロコ測量
	優秀賞	株式会社 相馬光学 (日の出町)	小型・高精度分光放射計の開発
	優秀賞	株式会社 タッチパネル研究所 (八王子市)	静電容量式タッチパネル搭載 テーブルコンピューター開発と市場展開

多摩グリーン賞 (経営部門)	最優秀賞	エム・ケー株式会社 (日野市)	ともにまちづくりを ～地域活性化のための大規模市街化調整 区域の開発～
	優秀賞 経営部門特別賞 経済産業省 東京産業労働 局長賞	株式会社 エマリコくにたち (国立市)	東京の農業を元気にする! 駅前型の地場野菜直売所「しゅんかしゅんか」
	優秀賞	株式会社 MNH (調布市)	地域内新連携による知恵と工夫で 仕事を生み出すビジネスモデル
	優秀賞	協同組合 国立旭通り商店会 (国立市)	国立・街のコンシェルジュ …お金と手間をかけない街の活性化
	優秀賞	株式会社 メルヘン (八王子市)	店舗数を変えずに、ブランド力を高め 10年前に比べ、売上を倍に利益を10倍に!

第11回 特別賞 たましん80周年記念 特別賞	たなへ物産株式会社 (八王子市)	新事業分野への挑戦 (地域中小事業者連携による指定管理 者業務への取組み)
-------------------------------	---------------------	---



第11回多摩ブルー・グリーン賞の表彰式が2013年12月12日、パレスホテル立川で開かれた。
同賞は、多摩信用金庫が多摩地域の中小企業の活性化と地域経済の振興に寄与することを目的に、中小企業や団体、個人事業主が開発した、優れた「技術・製品」や新しい「ビジネスモデル」を評価して「地域経済への貢献」を評価・表彰するもの。
今回は技術・製品部門の「多摩ブルー賞」に74件、経営部門

の「多摩グリーン賞」に51件の計125件の応募があり、明星大学教授で一橋大学名誉教授の関博博さんを委員長とした14人の選考委員の審査により、最優秀賞(副賞100万円)各1件、優秀賞(同50万円)計11件、特別賞として経済産業省関東経済産業局長賞1件、東京都産業労働局長賞1件、たましん80周年記念特別賞2件が選ばれた。
今回から多摩ブルー賞とグリーン賞の最優秀賞の発表は表彰式の中で行われ、今までは一味違った緊張感あふれる表彰式となった。
03年の第1回からの応募数は延べ1544件となり、受賞企業も延べ134社となった。

「多摩グリーン賞」に51件の計125件の応募があり、明星大学教授で一橋大学名誉教授の関博博さんを委員長とした14人の選考委員の審査により、最優秀賞(副賞100万円)各1件、優秀賞(同50万円)計11件、特別賞として経済産業省関東経済産業局長賞1件、東京都産業労働局長賞1件、たましん80周年記念特別賞2件が選ばれた。

多摩ブルー・グリーン賞とは

- 多摩ブルー賞(技術・製品部門)
優れた技術や製品等により地域経済の発展に貢献した、もしくは貢献が見込まれる中小企業や団体、個人事業主を表彰。
- 多摩グリーン賞(経営部門)
新しいビジネスモデルにより地域経済の発展に貢献した中小企業や団体、個人事業主を表彰(コミュニティ・ビジネスを含む)。
- 特別賞【経済産業省関東経済産業局長賞】
【東京都産業労働局長賞】
「経済産業省関東経済産業局長賞」は多摩ブルー賞受賞者

の中から、「東京都産業労働局長賞」は多摩グリーン賞受賞者の中から、単独の選考基準の項目において著しく評価の高かった受賞者を表彰。
●第11回特別賞【たましん80周年記念特別賞】
多摩地域での業歴が80年以上あるなど特有の継続性のある企業を対象に、両部門の応募内容から、長年にわたり積極的な事業展開による地域経済の活性化や地域振興活動等、その貢献度を高く評価できる中小企業や団体、個人事業主を表彰。詳しくはたましんホームページ <http://www.tamashin.jp> をご覧ください。

第11回

多摩グリーン賞 経営部門 最優秀賞

エム・ケー株式会社 日野市



「市街化調整区域の開発」と聞いて不動産への見識がある人は「それって可能な?」とまず首をかしげるかもしれない。なぜなら、都市計画法上「市街化調整区域」は原則では、市街化を抑制すべき区域とされているからだ。その「市街化調整区域の開発」にビジネスチャンスを見出し、土地活用の可能性を広げて



代表取締役
小林 勁氏

じっくり手間と時間をかけ、丁寧に行ってきた市街化調整区域の開発がこのように評価され、社員一同感謝するとともに大喜びしています。今後もこの分野を掘り下げ、社会貢献できる企業経営を追求していきたいと思っております。

「ともにまちづくりを」
地域活性化のための大規模市街化調整区域の開発

きたのが創業26年のエム・ケーだ。市街化調整区域の土地は、一般的に耕作放棄地・荒れ果てた雑種地のような生産性の低い土地が多い。その土地を、5～10年かけて地元地権者の同意形成を取り、進出企業の誘致、地元行政の開発許可取得、地元住民への説明を行い、「まち」をつくりあげる。

今まで埼玉、茨城、千葉、神奈川で1万坪や2万坪、時には10万坪の大規模開発を実現。市街化調整区域を生産性の高い土地に物流施設・商業施設・工場用地等に生まれ変わらせてきた。

「まち」ができればと地元地権者には収益、進出企業には理想の施設、地元行政には雇用・税収、地元住民には働く場所が生まれる。「関係者皆がともに豊かになっていく。これこそがこの仕事の醍醐味」と小林社長。現在、全国から問い合わせが相次ぐ。

「地域経済の活性化を社会的使命と捉え、長期的視野でじっくりと腰をすえて事業に取り組み、信頼と安心を得られる100年企業を目指していきたい」と小林社長は語ってくれた。

第11回

多摩ブルー賞 技術・製品部門 最優秀賞

白山工業株式会社 府中市

多くの高層ビルが林立する都市で、大規模な地震が発生した場合、ビルの安全性をたたちに判断し、退避場所や事業継続の拠点を確保することが求められている。
VissQは、強い地震動が来る前に、気象庁からの緊急地震速報を



代表取締役社長
吉田 稔氏

システム開発に関わった多くの人たちと喜びを分かち合いたいと思います。もともと防災システムの研究目的で始めた取り組みでしたが、今回の受賞で地域社会に役立つシステムとしての貢献度が認められ、大変うれしいです。

東日本大震災以降、防災への関心が高まる中で、計測地震防災システム「VissQ(ビスク)」は、地震発生時にビル内の揺れを計測しながら、瞬時に、人や建物の安全や事業継続など、迅速な対応が図れる地震防災の統合ソリューションだ。都内を中心に約120棟の高層ビルに導入され、実用化されている。



東日本大震災の時には、都内に約300万人以上の帰宅困難者がいたと言われるが、VissQがあれば、建物が発災拠点として安全かどうかの判定も下せる。建物の設備点検の優先順位付けや、復旧作業開始のタイミングなども判断できる。
VissQは、高層ビルの設計士やゼネコン関係者とともに開発した。高層ビルだけでなく、中低層ビルにも対応できるシステム作りを進めている。
今後は、多数の建物で計測した情報を集約できる仕組みを構築し、地域やグループ単位での地震の防災対策の向上にも貢献したいという。